

議長記者会見内容

日 時：令和2年10月5日（月） 16時30分～16時47分（17分）

場 所：議会棟3階 議会運営委員会室

○議会事務局 それでは時間になりましたので、これより議長記者会見を始めさせていただきます。

○議長 本日は、報道各社の皆様方には、お忙しい中、このようにお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、本9月定例会におきましては、運営・広報等におきまして、ご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

地方議会では、投票率の低下、あるいは議員のなり手不足など様々な課題がありますが、県民にとって、より身近な議会として周知されるよう、県民の皆様の関心を高め、理解を深めていただく一助とするために、今後、このような形で、定例会毎に会見を開催させていただくことといたしました。

まず、災害に関してですが、令和2年7月豪雨により、全国的に甚大な被害が発生し、県内でも3名の方が犠牲となられたほか、各地域において、住家の浸水や地すべり、がけ崩れ等の被害が多数発生したところであります。

また、先日の台風9号、10号による大雨・強風等で、本県をはじめ各地で大きな被害が生じており、お亡くなりになられた方々、並びにご遺族の皆様にご心から哀悼の意を表しますとともに、負傷され、また被害を受けられた方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。

本県でも、住家等の建物や港湾をはじめとした各種施設、さらには農水産物等で多大な被害が発生し、県と連携して災害復旧等に万全を期してまいりたいと存じております。

自然災害が頻発する中、万全の備えにより、県民の皆様の安全・安心を確保していくことが大変重要であると考えているところであります。

以降、9月定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

今定例会におきましては、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費、災害関連・復旧等に要する経費など、総額288億円余の一般会計補正予算案をはじめとした議案16件の審議、その他、新幹線の整備、特定観光複合施設IR区域整備の推進など、直面する諸課題について、活発な議論が交わされたところであります。

また、開会日には、全会一致で「新型コロナウイルス感染症感染者等に対する人権配慮等に関する決議」を可決したところであります。

新型コロナウイルス感染症は、本県においても7月から感染者が急増し、7月28日に

は本県の県議会議員の陽性が初めて確認されるなど感染者が急激に増加する中で、感染者や医療従事者及びその家族に対する誹謗中傷や差別などが、大変、深刻な問題であることが明らかとなりました。

このことから、感染を理由とした誹謗や中傷、差別、偏見の防止に向けた取り組みが急務であること。

また、感染拡大を防ぐ観点から、行政機関等が実施する感染症に関する対策・調査に対しては、県民の皆様積極的に協力いただく必要があり、今回の決議に至ったものであります。

報道機関の皆様のご協力もいただきながら、感染に対する正しい知識を県民の皆様と共有していくことが大切と考えております。引き続き、報道機関の皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、本定例会の運営に関しましても、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、感染症対策に取り組む理事者をできるだけ拘束せず、対策業務に専念してもらうように、前定例会に引き続き、今回の定例会においても分科会・常任委員会の審査日程を3日間としたところであります。

今後も、県の進める重要施策に対し、二元代表制の一翼を担う立場として、自由闊達な議論を交わし、議会としての役割を適切に果たして参りたいと考えております。

9月定例会を終えての所感は以上のとおりであります。九州新幹線西九州ルート未着工区間、新鳥栖武雄温泉間の整備に関しましては、西九州地域、九州の発展を見据え、早期着工に向けて、一日も早く環境影響評価の調査に着手していただくことが必要であると考えております。

このような中、佐賀県議会が9月30日の本会議で、佐賀県に対し国土交通省との協議を積極的に進めることを要請する決議案を可決されたことは、一歩前進と受け止めております。

10月中旬には、佐賀県と国との協議が行われる方向で調整されているようですので、協議が進展することを期待しています。

私からは、以上であります。

○記者（長崎新聞社） 今回の定例会見を始められるということで、議長が冒頭おっしゃられたように、投票率の低下や議員のなり手不足などを挙げているんですけども、そういった中で、県民にとって身近な存在として意識してもらうため定例会見を始めるといったことなんですけれども、いわゆる県議会に対する県民の方々の関心の低い、低いといったら語弊があるかもしれませんが、なかなか高まらない要因としてはどういったことがあるとお考えですか。

○議長 一般的には、政治に対する関心の薄さというものが投票率等々を見ましても分かるように、そういった流れ、風潮があるのではないかと考えております。

ただ、議会側あるいは議員個々の活動を通して、もっと積極的に有権者に交わり、地域の課題を捉えて、積極的に活動することもまた必要ではないか、あるいは、そういったことに努力すべき部分があるのではないかと考えております。

○記者（長崎新聞社） 例えば、今おっしゃられたことでありますと、こういう風に定例の記者会見を議長が開くだけではなくて、日頃から議員の方々の地道な政治活動が必要であるというふうな認識ということによろしいですか。

○議長 そうですね。

○記者（長崎新聞社） 最後におっしゃられた新幹線の件なんですけれども、先ほど議長がおっしゃられた佐賀県議会の方で国土交通省と積極的に協議をするよう要請するようという決議がなされましたが、今後、長崎県議会として、佐賀側であるとか国に対して、何らかアセスが実現するような感じで働きかけをするお考えはありますか。

○議長 まず、フリーゲージを断念したことによって、国の責任のうえで、全国津々浦々まで高速交通ネットを整備する必要があるという認識のもとに、国と佐賀県との協議が始まったというふうに認識しております。我々県議会といたしましては、そういった協議が進行していく中で、両県の県議会同士で共通の課題を見だし、どういったところから両県の協議が進んでいくのか、そういったチャンスと申しますか機会を見つけていきたいというふうに思っております。

○記者（長崎新聞社） そういった機会が見つければ、県議会としても何らかの働きかけをしていくということですか。

○議長 そうですね。佐賀県議会との同じ議論の深みというものが、共通として感じられるような状況になったとすれば、こちらも同じように進展するよう努力すべきと思っております。

○記者（長崎新聞社） 分かりました。最後にもう一点なんですけれども、今年の7月の段階で政務活動費の運用見直しについては、小委員会の方で、運用見直し案を年内に取りまとめるという方向で確認されたかと思うんですけれども、現在の検討状況はどうなっているのかお聞きかせ下さい。

○議長 正に小委員会で協議しておりまして、特に事務所費の見直し等々については、議論が進んでいるというふうに中間でお聞きしております。

具体的な内容については、全ての協議が整ってから、正式に発表することになるかどうかと思いますので、今しばらく推移を見守っていただきたいと思います。

○記者（長崎新聞社） 推移を見守るとのことなんですが、もうちょっと突っ込んで聞かせていただきたい。この前、今年の5月に問題になったときに事務所費に政務活動費を全額充てていることが論議の対象になるような気がしていたんですけども、そこについては、他の事務費みたいな感じで、例えば、事務所費に政務活動費を全額充当することはしないような方向に向かっているのか、そこら辺はいかがでしょうか。

○議長 おっしゃいましたとおり、全額充てない方向で検討すべきではないかという意見が多くを占めているというふうに聞いておりますので、そういった方向に行くのではないかと推測をいたしております。

○記者（共同通信社） 県議会の定例会後という意味では違うかもしれないですけども、今、国の方でハンコの廃止というのをあらゆるところで言われていると思うんですけども、県議会とか議長個人の考えでいいんですけども、行政とか議会のハンコの廃止についてどう思われるかというのを聞きたいんですけども。

○議長 ハンコの廃止につきましては、規則や制度上の問題があるかと思いますが、可能な限り、簡素化、廃止できるものは廃止。デジタル決裁等々含めて判断すべきではないかと思っております。

関連してなんですが、ICT化の推進ということをやっております、各議員にFAX等々での連絡や情報提供をやっているが、そういったことに携わる職員の時間あるいはペーパー等々の問題を含めて、できる限りメール等々で連絡をしようということで、今やりかけておまして、私自身は、今のところ、コロナ感染症対策のことも含めて1枚もFAXで事務所には送ってもらっていないという状況で、そういう議員さんがほとんどとなりつつあるような状況でありますので、今後、そういったことを積極的に推進すべきと考えている。

○記者（共同通信社） すでにそういう廃止の方向というか、減らすようにもう動いてらっしゃるとい認識でいいですか。

○議長 ICT化の推進としては、そういった協議を今やっております。事務局から何か付け加えて言うことはありませんか。

○議会事務局 元々、不要なハンコというのがあろうかと思っておりますので、そういったものについては、今、議長がおっしゃったとおり、今後、中身を精査しながら、必要でないものと必要なものをしっかりと分けて確認をしていきたいというふうに考えております。

○記者（長崎新聞社） 今回の議会もコロナ対策ということで、常任委員会の議案外の質問が5分に制限されていましたが、今後の議会では、時間を含めてまた普通に戻すとかそういう方針とかは今のところおありでしょうか。

○議長 状況を見てからの判断になると思うんですが、やはり感染の状況がどういう風になっていくのかというのを見極めたうえで、議会としては冒頭申し上げましたように、業務に支障をきたさないように、できるだけ対策にあたる職員の拘束はしないということを考えてながら議会運営をしなければいけないと思っております。

○議会事務局 以上をもちまして、議長記者会見を終了させていただきます。

★発言内容については、わかりやすいように一部変更している部分があります。